

# 反戦詩人

特別企画 劇団 the・創 第13回高知公演

# 不降身不辱志

脚本・演出 西森良子

おまんがよかれと思うて  
進む道 母さんはなんちや言わん  
その道さいごまで貫き通しよ



不降身不辱志  
(身をくださず、志を辱めない)

## 平成25年9月7日(土)

① PM1:30～(開場PM1:00) ② PM6:00～(開場PM5:30)

会場／美術館ホール 入場料／大人・子ども 1,000円

後援 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・平和資料館・草の家・高知新聞・RKC高知放送・朝日新聞・高知文化協会

チケット問い合わせ TEL.088-832-1156 携帯 090-7144-0459(西森)

## スタッフ

演出／西森良子

演出助手／寺尾和子

照明／江野慎次(互光照明)

音響／和田 泰(オールプロジェクト)

大道具／河瀬好郎

## 特別出演

ダンスムーブメント研究会

主宰 佐野暎子

ピアノ／高知センター合唱団

岡村陽子

## 主な出演

西森良子

吉成和子

田辺司乃

小笠原米子

久武洋一

近藤朝昭

宮川真幸

樋谷大作

田中篤子

吉成佐代

中藤桃子

吉成 遼

松本顕治(砂漠ノ水たまり)

渡辺絹子(劇団どっこ)

横田和久(カインナマエ)

(友情出演)

岡村正弘

藤原義一

小澤幸泉

渡辺忠直

田辺浩三

村上信夫

## 横村浩の演出上演によせて

高知文学学校運営委員長 猪野 睦

横村浩が映画化されたのは一九八三年だった。土佐文雄原作「人間の骨」が木之下晃明監督によって、見事な感動をよぶ作品として評判になった。そのあと横村浩が、高知を追われ転校した現在の岡山県関西高校の学生によって舞台化され高知でも上演された。迫力のあるリアルな芝居だった。

横村浩は一九二二年高知市にうまれた。少年時代神童といわれた。土佐中学へ入るが軍人養成の海南学校へ転校、そこで軍事教練反対運動を起し、岡山県関西中学へ再転校した。卒業して帰ってくるのが一九三一年、日本の中国侵略は満州事変を引きおこす。

この年、高知プロレタリア作家同盟結成、同時に共産主義青年同盟に参加、果敢な反戦運動仲間とともに起す。反戦ピラをつくり三二年二月の朝倉四十四連隊の中国侵略上海出兵動員令にたいし、深夜、兵営内に撒く反戦ピラを作成し、この間、反戦運動とともに労働運動、製糸女工のストライキ支援もした。

一方、「生ける銃架」「間島パルチザンの歌」「出征」などの詩を発表、三二年四月二日一斉検挙された。このあと拷問が原因となつて体調異常、そのなかで多くの詩、評論をかかくが三六年一二月再検挙、中国侵略が拡大する三八年九月二日二六歳で没した。

今年はこの横村浩生誕一〇三年になる。それを記念して西森良子さんがみずからシナリオをかき、その演出上演することになった。「賃金三割値上げしろ！労働時間を七時間に！外出、外泊、通信の自由よこせ！全協日本センイ××分会の確立へ！」のアジビラをかき、メーデー参加を呼びかけていく横村浩の詩「明日はメーデー」の女工演出など、たぶん現代にふたたび生きて伝わってくる芝居として期待される。地元でシナリオがかかれ上演されていくのはうれしい。

